



新橋小学校

学校だより

令和6年1月31日

令和5年度 第10号

共助のために

副校長 青木 英一郎

2024年が始まって、早1か月。冬休み明けから新たな気持ちでスタートし、学校では毎日元気な子どもたちの姿がたくさん見られます。

あと2か月で子どもたちは次の学年に上がります。6年生は4月から中学生、残りの小学校生活を一日一日大切に過ごしています。1年生から5年生も新しい学年への準備をしっかりと進めながら学校生活を送っています。

元日に起きた能登半島地震に関連したニュースが毎日テレビや新聞で報道されています。早期の復興を祈りつつ、防災に向けた取り組みや心構えなどを改めて考えさせられます。

災害が起こった際、被害を軽減するためには三助「自助・共助・公助」が必要不可欠と言われています。

自助…まず自分自身の身の安全を守ること。この中には家族も含まれる。

共助…地域やコミュニティといった周囲の人たちが協力して助け合うこと。

公助…市町村や消防、県や警察、自衛隊といった公的機関による救助や援助のこと。

どの「助」も必要不可欠ですが、ニュースなどの報道を視聴すると「共助」の重要性をとんでも感じます。「共助」＝「助け合う」ためには、どんなことが大切なのでしょうか？

コミュニケーション：自分の意図や感情を適切に伝えること・相手の話を真剣に聞くことでニーズや考えを受け入れることにつながる。

相手を知る：相手の立場や感情に共感し、課題や喜び、悩みを理解し、異なる文化や価値観を尊重すること。

信頼構築：約束を守ったり、自分の考えや行動をオープンに共有したりすることは信頼を築く基本になる。

協力と柔軟性：共助の基本はお互いに協力し合うこと、協力して問題を解決しようとする意識や予測できない状況に柔軟に対応することも重要。

「コミュニケーション・相手を知る・信頼構築・協力と柔軟性」は、教科学習や学校生活を通して、子どもたちが日々学び合っています。学校で勉強し、生活することは「共助のために」なっているのです。

これからも、子どもたちに力を合わせて助け合いながら勉強したり、生活したりできるよう、充実した教育活動を展開していきたいと考えています。

今後とも、本校の教育活動にご理解・ご協力のほど、よろしくお願いいたします。